

理解を深め
表現を豊かにする

語彙力



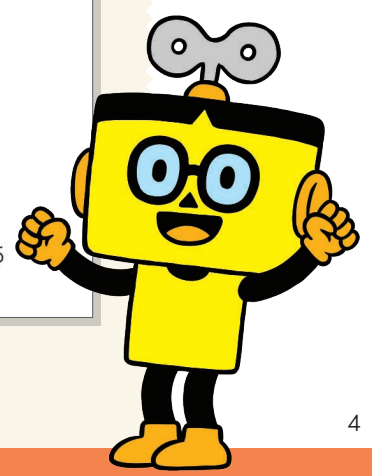
光村の「国語」完全活用ガイド

言葉の宝箱



言葉のたから箱

思ったことを伝えるとき、どんな言葉を使ったらよいか一人で考えていたけど、ここを見るともっと選択肢が広がりそうだ。



人物や出来事をせつめいするときや、自分の考えや気持ちを書いたり話したりするときに、役立てましょう。

人物を表す言葉

- いさましい
- たのもし
- たよりの
- がんこ
- 注意深い
- そそっかしい
- おさない
- 心が広い
- 自分勝手
- 活発

物や事がらの様子を表す言葉

- はだ寒い
- うす暗い
- ごうか
- ぜいたく
- ふべん
- またたくま
- 思いがけない
- とつぜん
- じわじわ
- せいかく

- 大げさ
- 重苦しい
- わずか
- きちょう

気持ちを表す言葉

- 待ち遠しい
- むちゅう
- はり切る
- いよく的
- めんどろ
- 物足りない
- 注目する
- 引きつけられる
- このむ
- とくいになる

- ぎよつとする
- はつとする
- 目を丸くする
- ぞつとする
- こわごわ
- ぞくぞくする
- おそろおそろ
- おそれる
- なさけない
- 申しわけない

- 期待
- 心がくもる
- こだわる
- ひっし
- せい いっぱい
- 決心する

「さいころトーク」を 楽しもう

ここにある言葉で、スピーチをしてみよう。
言葉を書いたさいころをふって、話題を決める「さいころトーク」をしても楽しいですよ。
「さいころトーク」の進め方
①グループで、好きな言葉を六つえらび、それぞれの面に言葉を書いたさいころを作る。
②話をする順番を決め、自分の番になったら、さいころをふる。
③出た言葉から思いうかんだことを話題に、スピーチをする。

国語辞典で意味を調べてもいいね。



これまでに学んだ言葉を見る。



評価語彙や感想語彙を 三つのカテゴリーで提示

「気持ちを表す言葉」は、折り込みを広げると、教材と同時に見ることができるから、いつでも使えるな。



前の巻までに 学習した言葉を確認

QRコードからいつでも見ることができます。



活用方法の提案

言葉から思いうかぶことがたくさんあるよ。やってみよう。



一年生

41語

人物を表す言葉

- あかるい
- げんき
- しずか
- やさしい
- こわがり
- がんばりや

事物を表す言葉

- かんたん
- むずかしい
- あたらしい
- ふるい
- のんびり
- のろのろ
- さむい
- つめたい
- すずしい
- あつい
- あたたかい

心情を表す言葉

- かたい
- やわらかい
- ひろい
- せまい
- ていねい
- きれい
- あぶない
- おもしろい
- たのしい
- つまらない
- わくわくする
- うきうきする
- うれしい
- かなしい
- よろこぶ
- おどろく
- びつくりする
- どきどきする
- こわい
- こまる
- はずかしい
- くるしい

二年生

90語

人物を表す言葉

- かわいそう
- がっかりする

- たくましい
- ゆうきのある
- しつかりもの
- うっかり
- 正直
- まじめ
- まげずらい
- たよりになる
- のびのび
- おとなしい
- 一生けんめい
- おだやか
- 親切
- 思いやりのある
- おこりっぽい
- きびしい

事物を表す言葉

- がまん強い
- こつこつ
- いじわる
- わがまま
- めずらしい
- 人気
- とくべつ
- すばやい
- うつくしい
- にがい
- すっぱい
- からい
- はつきりした
- くわしい
- 細かい
- ぬるい
- ひんやり
- まぶしい
- 目立つ
- どっしりした
- きゆうくつ
- べんり

心情を表す言葉

- やく立つ
- さわがしい
- にぎやか
- りっぱ
- すばらしい
- せっせと
- あつというま
- なめらか
- しっとり
- かわいらしい
- にあう
- 気分がいい
- きげんがいい
- まよう
- すつきり
- 力強い
- 心強い
- にがて
- きつい
- さびしい
- じまん
- あんしん
- ほっとする
- ふあん
- しんばい
- ひやひやする
- へいき
- おびえる
- おそろしい
- たいくつ
- あきる
- じしんがある
- 本気
- くたびれる
- つかれる

三年生

100語

人物を表す言葉

- はんせい
- あわてる
- あせる
- はらはらする
- おちつく
- うっとり

事物を表す言葉

- おさない
- 心が広い
- 自分勝手
- 活発
- 生き生きとした
- はげしい
- のどか
- なごやか
- 広々とした
- ひっそりとした
- 分かりやすい
- 分かりにくい
- 身近
- 親しみがある
- 見事
- がっしり
- 人なつこい
- あやしい
- はだ寒い
- うす暗い
- ごうか
- ぜいたく
- ふべん
- またたくま
- 思いがけない
- とつぜん

心情を表す言葉

- じわじわ
- せいかく
- 大げさ
- 重苦しい
- わずか
- きちよう
- さわやか
- ゆかい
- めてたい
- なつかしい
- 心へのこる
- 心が動く
- 心にしみる
- 心細い
- 心がおどる
- ゆめのよう
- 運がいい
- なやむ
- 感動
- かんしゃ
- そわそわする
- うずうずする
- 落ち着かない
- すねる
- かっとなる

- すなお
- 温かい
- ねばり強い
- 気が長い
- 気が短い
- 気が小さい
- おくびょう
- 弱気
- 強気
- 陽気
- いさましい
- たのもし
- たよらない
- がんこ
- 注意深い
- そそっかしい

- さわやか
- ゆかい
- めてたい
- なつかしい
- 心へのこる
- 心が動く
- 心にしみる
- 心細い
- 心がおどる
- ゆめのよう
- 運がいい
- なやむ
- 感動
- かんしゃ
- そわそわする
- うずうずする
- 落ち着かない
- すねる
- かっとなる

- いかり
- ふきげん
- いらいらする
- こうふん
- つらい
- 感心
- 待ち遠しい
- むちゅう
- はり切る
- いよく的
- めんどろ
- 物足りない
- 注目する
- 引きつけられる
- このむ
- とくいになる
- ぎよつとする
- はつとする
- 目を丸くする
- ぞつとする
- こわごわ
- ぞくぞくする
- おそろおそろ
- おそれる
- なさけない
- 申しわけない
- 期待
- 心がくもる

発達段階を考慮して、掲載語句を選定

学習指導要領では、「知識及び技能」に、語彙を豊かにすることに關する事項が設けられ、各学年において指導の重点とする語句の目安が示されています。

ただ、言葉は一朝一夕に身につくものではありません。児童が感想やものの見方を述べるときに使える語句を取り上げた「言葉の宝箱」では、学習指導要領をもとに三つのカテゴリーを設け、一年下巻から六年全てで共通化させました。児童の発達段階や、当該学年の教材との関連などを考慮しながら、多くの言葉に出会い、自分の話や文章の中で使っているように言葉を選定しています。なお、論理展開を明確にして伝えるための語句は、「伝え合うための言葉」に示しました。

詳しくは11ページ



四年生

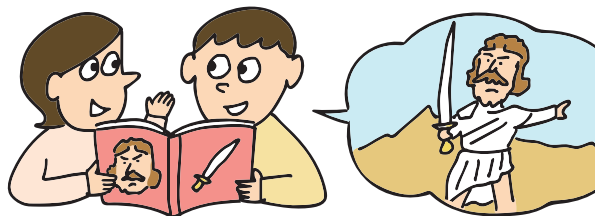
127 語

人物を表す言葉

- ゆうかん
- 行動力のある
- 責任感が強い
- 無責任
- がむしゃら
- 用心深い
- のんき
- せっかち
- 器用
- 熱心
- 根気強い
- しんぼう強い
- 強がり
- ずうずうしい
- 友好的
- なみだもろい
- あっさり
- 気がきく
- 気まぐれ
- 冷やか

事物を表す言葉

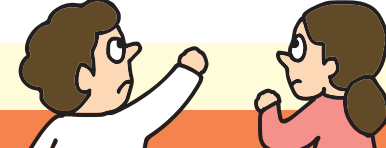
- かんべき
- 着実
- 十分
- さすが
- ―を上回る
- 二つとない
- このうえない
- かんじん
- ずばぬける
- すさまじい
- おく深い
- 印象的
- あざやか
- くつきり
- かすか
- うっすら



- 広大
 - 流行
 - がんじよう
 - かるやか
 - かなわな
 - おとる
 - 弱点
 - 重大
 - 重要
 - かけがえのない
 - くらべものにならない
 - えいきようが大きい
 - しんせん
 - 独特
 - 特色のある
 - ユーモアのある
 - 色とりどり
 - こちよい
 - 品がいい
 - 上品
 - はなやか
 - みりよく的
 - 清潔
 - 望ましい
 - 予想どおり
 - たしか
 - ゆたか
 - そうぞうしい
- 静まり返った
 - ひそか
 - どんより
 - 気味が悪い
 - さかんに
 - めまぐるしい
 - じよじよに
 - ひたすら
 - ゆるやか
 - なだらか
 - まばら
 - 具体的

心情を表す言葉

- 親しむ
 - 関心をもつ
 - きようみ深い
 - 打ちこむ
 - 熱中
 - 目がはなせない
 - いたわる
 - こうかい
 - むねがいたむ
 - ためらう
 - じれったい
 - 手にあせをにぎる
 - しぶしぶ
 - にくい
- 意外
 - 目をうたがう
 - 不気味
 - 思いこむ
 - なごむ
 - ゆとりがある
 - ゆったりする
 - かんげき
 - むねを打たれる
 - ほこらしい
 - なっとくする
 - 心がはずむ
 - むねがはずむ
 - まい上がる
 - うかれる
 - あつけにとられる
 - 目からうろこが落ちる
- 共感
 - 同情
 - 気にかかる
 - 気落ちする
 - 頭をかかえる
 - 心が晴れる
 - 気が晴れる
 - 気がすむ
 - かたの荷が下りる
 - かたの力をぬく
 - 気を引きしめる
 - 冷やあせをかく
 - むっとする
 - はら立たしい
 - へそを曲げる
 - しんぼうする
 - こらえる
 - 心のささえとなる
 - いやされる
 - 心温まる



五年生

120 語

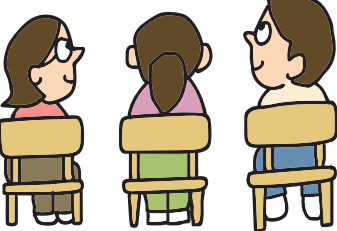
人物を表す言葉

- 気のいい
- 愛想がよい
- あいきようのある
- いさぎよい
- じゆんすい
- いせいがいい
- びんかん
- むじやき
- 情け深い
- はくじよう
- 不器用
- 強情
- 自由気まま

事物を表す言葉

- しんちよう
- きちようめん
- えんりよ深い
- ひかえめ
- けんきよ
- おおらか
- おっとり
- 冷静
- どきようがある
- 堂々とした
- 才能のある
- すぐれた
- 力量のある
- はつらつとした

- 良好
- 良質



- 優良
 - 最適
 - 良心的
 - とぼしい
 - 無数
 - 雑然
 - 整然
 - 古風
 - ごうかい
 - まさる
 - 引けをとらない
 - 一、二を争う
 - 評価が高い
 - みずみずしい
 - すがすがしい
 - 目新しい
 - 名高い
 - 評判がいい
 - 価値がある
 - とてつもない
 - 強烈
 - すみやか
 - しつくり
 - なじむ
 - 順調
 - 自然
 - 不自然
 - 重々しい
- 鮮明
 - 確実
 - 明らか
 - 代表的
 - 神秘的
 - しげきの
 - ばつぐん
 - そまつ
 - そぼく
 - ほのか
 - 有効
 - 効果的
 - 一般的
 - 特殊
 - 特有

心情を表す言葉

- こいしい
 - あせんとする
 - 息をのむ
 - うろたえる
 - 後ろめたい
 - とまどう
 - 高ぶる
 - ほれぼれする
 - ときめく
 - 心をゆさぶる
 - 声はずむ
- こみ上げる
 - 晴れやか
 - ほほえましい
 - 気が遠くなる
 - 気が進まない
 - 気が引ける
 - 気がめいる
 - 気が重い
 - 気が軽くなる
 - 気をしずめる
 - 心に留める
 - 尊重する
 - くじける
 - 快い
 - 軽快
 - とりはだが立つ
 - むねが高鳴る
 - 顔を赤らめる

- 張りつめる
- 安らぐ
- 苦々しい
- 切ない
- しみみり
- 気の毒
- 息苦しい
- いたいたしい
- 実感する
- 痛感する
- 興味しんしん
- 背すじが寒くなる
- 息がつまる
- 無我夢中
- 熱が冷める
- 決意
- 印象に残る
- あこがれる



いかそう

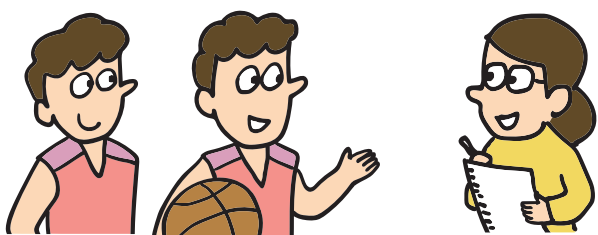
教室でいつでも見ることができるように掲示しておく、児童が言葉に迷ったときに活用することが出来ます。関連する言葉など、児童から挙がったものを加えて、クラスの「言葉の宝箱」を作るのもよいですね。

人物を表す言葉

- ◆ 率直
- ◆ 快活
- ◆ 竹を割ったよう
- ◆ 誠実
- ◆ 楽天的
- ◆ 樂觀的
- ◆ 悲觀的
- ◆ 氣難しい
- ◆ 積極的
- ◆ 消極的
- ◆ えんりよがち
- ◆ 論理的
- ◆ 感情的
- ◆ 熱意のある
- ◆ ひたむき
- ◆ 厳格
- ◆ もの静か
- ◆ するどい
- ◆ 優柔不断
- ◆ 未熟
- ◆ 個性的
- ◆ ひいてる
- ◆ 強い

事物を表す言葉

- ◆ いちじろしい
- ◆ ひときわ
- ◆ たとえようがない
- ◆ 計り知れない
- ◆ 一目りようぜん
- ◆ 簡潔
- ◆ 質素
- ◆ 質素
- ◆ にわか
- ◆ 見合う
- ◆ 申し分ない
- ◆ 適切
- ◆ 好ましい
- ◆ 不都合
- ◆ 不つり合い
- ◆ 明確
- ◆ 的確
- ◆ 不確か
- ◆ あいまい
- ◆ まれ
- ◆ 一長一短がある
- ◆ 典型的
- ◆ 不向き
- ◆ 不規則
- ◆ 雄大
- ◆ ささやか



心情を表す言葉

- ◆ 明快
- ◆ まばゆい
- ◆ 香ばしい
- ◆ ありのまま
- ◆ 一目置く
- ◆ 好感をもつ
- ◆ 思い入れがある
- ◆ 我を忘れる
- ◆ 専念
- ◆ わきめもふらず
- ◆ 没頭する
- ◆ 満ち足りる
- ◆ 心にひびく
- ◆ かんめいを受ける
- ◆ したう
- ◆ いとおしい
- ◆ 愛着がある
- ◆ いきどおる
- ◆ 気が楽になる
- ◆ 痛快
- ◆ 胸がすく
- ◆ 胸にひびく
- ◆ 胸にせまる
- ◆ 胸がいっぱいになる
- ◆ 胸をふくらませる
- ◆ 待ち望む



いかそう

同じ内容を伝えるときでも、友達と話すときとクラスで発表するときでは使う言葉が異なるなど、場面によって言葉を使い分けることを、国語の学習を通して学んでいきます。「言葉の宝箱」は、言葉が与える印象も考えながら、相手や場面に合った言葉を選ぶときにも活用できます。

- ◆ 忘れがたい
- ◆ よいんが残る
- ◆ ほのぼのする
- ◆ くつろぐ
- ◆ 苦心
- ◆ 悲痛
- ◆ 失望
- ◆ 幸福
- ◆ もの悲しい

2

伝え合うための言葉

伝え合うための言葉

考えを伝えたり、聞いたるときに、役立てましょう。

考えを伝える

- ◆ 事実と意見を区別する
- ◆ と書かれています。(事実)
- ◆ すべきです。(意見)

関係をはつきりさせる

- ◆ は、——の一例です。
- ◆ ここから、——といえます。

受けて返す

- ◆ 要点をとらえる
- ◆ さんは、——と考えたのですね。

考えを引き出す

- ◆ のきっかけは何ですか。
- ◆ て大切なことは何ですか。

話し合いを進める

- ◆ 話し合っべき点を確認する
- ◆ ーという点で、意見が分かれています。
- ◆ 共通点(異なる点)は、——。

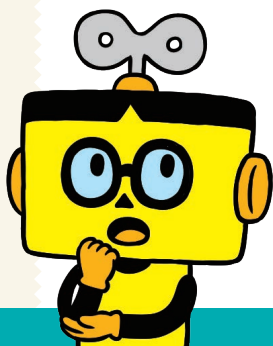
意見を検討する

- ◆ の場合は、どうですか。
- ◆ の立場になって考えてみると、——。

課題解決につながる言葉

- ◆ この課題の原因には、——があります。
- ◆ 他の方についても、検討してみませんか。
- ◆ のときの方法を応用できるとします。
- ◆ を修正したら、全体をもう一度確かめましょう。

友達と考えを交流するとき、このページを確認すると、分かりやすく伝えられそう。



「伝え合うための言葉」は、考えを伝えたり、聞いたるときに役立てることが出来ます。発達段階に応じて、その学年で児童に使えるようになってほしい言葉を掲載しました。

下段には、「課題解決につながる言葉」を示しています。国語の学習の中でプログラミング的思考が身につくよう、問題を分解する、問題解決や表現のための手順を考える、不具合を見つけて修正するなどの思考を働かせることにつながる話型を、発達段階に応じて示しました。

学習に用いる言葉

学習に用いる言葉

国語の学習で、よく使われる言葉です。意味をたしかめて、学習に役立てましょう。

会話文・地の文

かぎ（「」）でしめしている、登場人物の言葉を会話文といい、他のところを地の文という。物語では、主に地の文によって話が進む。

（「三年とうげ」72ページ）
「どうすればなるんじや……」会話文
おじいさんは、ふとんから顔をのぞきました。……地の文

会話文では、登場人物の考えや思いがそのまま表れていることが多い。

地の文では、登場人物の様子や行動を表しているところに、その登場人物のせいかくや気持ちが表れていることがある。

司会

話し合いなどを、目的や話題に合わせて進行すること。また、それを行う人。

全員が、自分が司会だったらどう進めるかを考えながらさんかすると、話し合いが進みやすくなる。

語り手

物語の地の文を語る人。人物の行動や気持ち、場面の様子などを語りながら、話を進めていく。

語り手がどのような立場で、どの登場人物によりそっているかをたしかめると、その物語の世界をいっそう深く味わうことができる。

三年上で学んだ言葉

問い（問いの文）

せつめいする文章などで、これから何を書くかを、読み手に問いかける形で表した文のこと。

段落

文章を組み立てている、事がらごとのないようまとまり。はじめを一字下げて表す。

引用

他の人の言葉や、本などに書かれていることを、自分の文章の中で使うこと。元の言葉や文を、そのままめき出す。

出典

引用した言葉が書かれていた本やしりょうなどのこと。

さくいん

その本の中にある言葉や物事がどのページにあるかを、五十音順などしてしめしてあるもの。

連

一行空きなどを入れて区切られた、詩の中のそれぞれのまとまり。

キャッチコピー

相手を引きつけるようにくふうされた、短い言葉。

二年生までに学んだ言葉

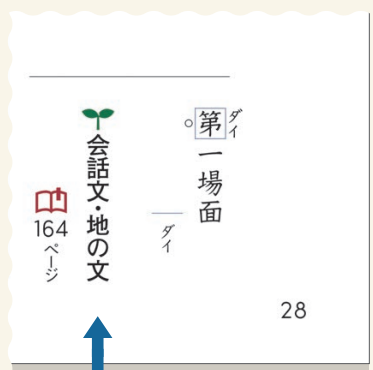
- あらすじ □ 場面
- 組み立て □ 筆者
- 作者 □ メモ
- しつもん □ 訳者
- 題名 □ 話題
- 登場人物

学習の中で初めて知った言葉だけでなく、意味や使い方が分かった、学習が深まりそう。なぜ会話文と地の文に着目するのか、ここを見ると分かるね。

3年下巻 P164

「学習に用いる言葉」は、2年上巻以降の各巻巻末に掲載しています。

前の学年までに学習した言葉
QRコードを読み取ると、解説を見ることができます。



初出箇所では、欄外に取り出して示しています。

会話文・地の文

かぎ（「」）でしめしている、登場人物の言葉を会話文といい、他のところを地の文という。物語では、主に地の文によって話が進む。

（「三年とうげ」72ページ）
「どうすればなるんじや……」会話文
おじいさんは、ふとんから顔をのぞきました。……地の文

会話文では、登場人物の考えや思いがそのまま表れていることが多い。

用語

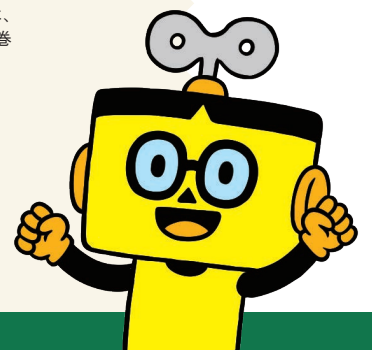
用語の解説

教科書初出のページ

教科書での例

留意点・活用方法

どう活用できるのかが分かるから、学習で使えるようになりそうだね。



学年	学習用語	教材
1年	題名	おおきな かぶ
	作者	やくそく
	訳者	ずうっと、ずっと、大すきだよ
2年	登場人物（人物）	ふきのとう
	メモ	ともだちは どこかな
	場面	スイミー
	組み立て	こんな もの、見つけたよ
	質問	あったらいいな、こんなもの
	筆者	どうぶつ園のじゅうい
	話題	そうだんにのってください
3年	あらすじ	みきのたからもの
	問い（問いの文）	文様
	引用	引用するとき
	索引	本で知ったことをクイズにしよう
	連	わたしと小鳥とすずと 夕日がせなかをおしてくる
	キャッチコピー	ポスターを読もう
	会話文・地の文	ちいちゃんのかげおくり
	司会	おすすめの一さつを決めよう
	語り手	モチモチの木
	要点 箇条書き	聞き取りメモのくふう
4年	対比	思いやりのデザイン
	設定	一つの花
	要約	要約するとき
	見出し	
	取材	新聞を作ろう
	割り付け	
	情景	ごんぎつね
5年	議題	クラスみんなで決めるには
	心情 人物像	銀色の裏地
	要旨	見立てる
	構成 事例	言葉の意味が分かること
	主張 根拠	文章に説得力をもたせるには
	山場	大造じいさんとガン
6年	視点	帰り道
	推敲	文章を推敲しよう



「学習に用いる言葉」一覧

(全学年・五十音順)

【あ】

🌱 あらすじ

物語を短くまとめたもの。登場人物がしたことや、出来事を、話の順に短くまとめてつなげると、あらすじになる。

🌱 引用

他の人の言葉や、本などに書かれていることを、自分の文章の中で使うこと。
・かぎ(「」)をつけるなどして、他と区別する。
・元の言葉や文を、そのまま抜き出す。
・どこから引用したのかを示す。

【か】

🌱 会話文・地の文

かぎ(「」)で示している、登場人物の言葉を会話文といい、他のところを地の文という。物語では、主に地の文によって話が進む。

🌱 箇条書き

事柄を、短く、一つ一つ分けて書き並べる書き方のこと。「・」「①②……」など、記号や数字を用いることが多い。

🌱 情景

物語や詩で、登場人物の気持ちと響き合うように描かれた、風景や場面の様子。その登場人物の目に映った景色や、聞いた音などとして、修飾語とともに描かれることが多い。

🌱 事例

ある物事や考えを説明するために例として挙げられる、具体的な事実のこと。

🌱 心情

登場人物が、心の中で思っていることや感じていること。直接書かれているだけでなく、行動や会話、情景にも表れる。

🌱 人物像

物語全体を通して描かれる、人物の性格や、ものの見方・考え方などの特徴を、総合的に捉えたもの。

🌱 推敲

一度書いた文章をよりよくするために、読み直して、誤字などを修正したり、形式や表現を適切な形に整えたりすること。

🌱 設定

時、場所、登場人物など、その物語全体に関わること。

🌱 語り手

物語の地の文を語る人。人物の行動や気持ち、場面の様子などを語りながら、話を進めていく。

🌱 議題

話し合いや会議などで取り上げる題材のこと。話し合うことによって何かを決めたり、互いの考えを交流したりしたい事柄を選ぶとよい。

🌱 キャッチコピー

相手を引きつけるように工夫された、短い言葉。

🌱 組み立て

文章や話が、どのようなまとまりと順序できているかということ。組み立ては、「初め」「中」「終わり」という三つのまとまりで考えると、分かりやすくなることが多い。

🌱 構成

話や文章の全体が、どのようなまとまりで組み立てられているかということ。

【た】

🌱 対比

二つのものを比べて、違いをはっきりさせること。

🌱 題名

物語や文章に付けられた名前のこと。

🌱 段落

文章を組み立てている、事柄ごとの内容のまとまり。初めを一字下げて表す。

🌱 問い(問いの文)

説明する文章などで、これから何を書くかを、読み手に問いかける形で表した文のこと。

🌱 登場人物(人物)

物語の中に出てくる人のこと。物語の中で、人のように動いたり、考えたりする生き物や物も、登場人物(人物)という。

【は】

🌱 場面

物語の中にあるいくつかのまとまりのこと。時間や場所、登場人物のしたことなどで、ひとまとまりになっていることが多い。

🌱 根拠

考えや主張のもとになるもので、客観的な事実や、体験などの具体的な事例によって示されることが多い。

【さ】

🌱 索引

その本の中にある言葉や物事が、どのページにあるかを、五十音順などで示してあるもの。

🌱 作者

物語や詩などを作った人のこと。

🌱 司会

話し合いなどを、目的や話題に合わせて進行すること。また、それを行う人。

🌱 質問

分からないことや知りたいこと、確かめたいことなどを、人にきくこと。質問をするときは、相手の話をよく聞いて、関係のあることを尋ねるようにする。

🌱 筆者

文章を書いた人のこと。物語や詩などを作った人である「作者」と区別して、説明する文章を書いた人を筆者ということがある。

【ま】

🌱 見出し

文章のまとまりの初めに置かれる、要点を短くまとめた言葉。

🌱 メモ

聞いたことや考えたことなどを、後で確かめられるように書き留めること。また、書き留めたものも、メモという。

【や】

🌱 訳者

外国語の文章を、日本語の文章に直す人のこと。

🌱 山場

物語の中で、中心となる人物のものの見方・考え方や、人物どうしの関係が大きく変わるところ。

🌱 視点

物語や詩において、語り手がその作品をどこから見て語っているかということ。登場人物に寄り添った視点から語ること Alternatively、登場人物自身の視点から語る場合や、どの人物にも偏らない視点から語る場合もある。

🌱 取材

知りたいことについて、さまざまな方法で調べて、材料を集めること。実際に見たり聞いたりする、本などで調べる、アンケート調査をするなどの方法がある。

🌱 主張

自分の意見や思いを他の人に訴えること。また、その意見や思いのこと。

🌱 出典

引用した言葉が書かれていた本や資料などのこと。本の場合は、①作者名、②題名、③出版社(発行所)名、④発行年、⑤書かれていたページを示す。

🌱 要旨

筆者が文章で取り上げている、内容や考えの中心となる事柄。文章全体をまとめている段落に表れることが多い。

🌱 要点

物事や人の話などの中心となる、大事な事柄のこと。

🌱 要約

話や本、文章の内容を短くまとめること。目的に応じて、元の文章の組み立てや表現をいかしたり、自分の言葉に言い換えたりしてまとめる。

【ら】

🌱 連

一行空きなどを入れて区切られた、詩の中のそれぞれのまとまり。

【わ】

🌱 話題

話したり話し合ったりするときの材料や、中心となる事柄のこと。

🌱 割り付け

新聞などで、記事や見出し、写真・図などの大きさと、入れる場所を決めること。



「個別最適な学び」「協働的な学び」のために

語彙力を高めるうえで大切なことを、森山卓郎先生（早稲田大学）に聞きました。

Q.1

語彙力とはどのようにして
高めるのでしょうか。

語彙力というとき、二つの観点が重要です。一つは、「多くの言葉（語）を知る」という「量」の観点です。もう一つは、適切に使えるようになるといった「質」の観点です。したがって、語彙力を高めるには、多くの語に触れることが基本になります。自分の言葉として必要なときに適切に使えるように意識化していくことも重要です。

Q.2

「言葉の宝箱」「学習に用いる言葉」
「伝え合うための言葉」を
どう活用するといいいでしょうか。

生活環境の違いもあって、子どもたちが言葉と出会う機会はさまざまです。あらゆる機会に「知らなかった言葉」「身につけたい使い方」などを意識化すること、そして、実際に使ってみる場を作ることが必要です。

「言葉の宝箱」「学習に用いる言葉」では、学習上必要だと思われる言葉が厳選されています。「伝え合うための言葉」では、いろいろな場面で有用な文型が整理されています。

これらの言葉を必要に応じて使うよう、日常的に促していくとよいでしょう。例えば、人物像を

話し合う授業のときには、「言葉の宝箱」の「人物を表す言葉」が考えを深めていく手がかりになります。内容に応じて、「この言葉を使おう」という課題設定でコンパクトに書かせることも有効でしょう。

また、「言葉の宝箱」を利用して、意識的に語彙力を伸ばす活動も有益です。教科書紙面に示された活動以外に、国語辞典などを活用して「言葉新聞」を作ったり、辞典比べをしたりすることなども考えられます。辞典を使うときは例文（使い方）にも注意しましょう。

Q.3

「個別最適な学び」「協働的な学び」と
いう観点から、語彙教育を
どう考えればよいでしょうか。

「個別最適な学び」という点では、語彙力も語との出会い方・広げ方も人それぞれなので、ICTの使用や、語とその表記に用いられる漢字の意味との関連づけなど、児童個々の語彙の伸ばし方に柔軟に対応しながら、スモールステップで楽しく学習していくことが重要だと思います。「協働的な学び」という点では、「友達などが使った言葉との出会い」も大切です。これらの付録教材を見て教え合ったり、書いたものを読み合ったりすることは大変有益だと思います。

内容解説資料
発行者
発行所

吉田直樹
光村図書出版株式会社
〒141-8675
東京都品川区上大崎2-19-9
電話 03-3493-2111（代表）

光村図書ウェブサイト

光村図書

検索



印刷
デザイン
イラスト

協和オフセット印刷株式会社
キタダデザイン
杉崎貴史
SANDER STUDIO

子どもたちの未来のために、光村図書は、教科書の作成にあたって、「環境」「健康」「子どもの特性」に配慮しています。

- ・ 原料や製法など、環境に配慮した紙を使用しました。
- ・ 環境と健康にやさしい、エコマーク認定の植物油インキで印刷しました。
- ・ 児童の負担を軽減するため、堅牢で薄い紙を開発し、使用しています。
- ・ カラーユニバーサルデザインに関して、細心の注意を払いました。
- ・ 児童の学習負担を軽減するように配慮された書体を使用しました。
- ・ 特別支援教育の視点から、専門家の入念な校閲を受けました。

QRコードは（株）デンソーウェブの登録商標です。



光村図書